

1 はじめに

本校では、学校教育目標「自ら考え、判断し、正しいことを進んで行う心身ともに健やかな子どもの育成」を達成するため、本年度の重点目標として「関わり合いの工夫・充実を通して、主体的に学ぶ態度を育てる」を設定し、教育活動に取り組んできた。児童が様々な集団との関わり合いを通して、自分たちで考えて活動を決めたり改善したりすることができるような活動の場を工夫・充実させることで、本研究会の主題である「望ましい集団活動の活性化」と「自主的・実践的な態度を育てる特別活動」の達成に迫ろうと考えた。

2 資料（実践事例）

(1) 挨拶運動

運営委員を中心に、毎朝挨拶運動を行った。児童全員が元気な挨拶ができるよう、給食の時間に挨拶を返してくれた人数や特に元気な声で挨拶をした児童の名前を放送し発表した。



(2) 縦割り班活動

月に約1回、ロング昼休みを使って縦割り班活動を行った。1つの班には、どの学級からも1人以上は入るようにし、6年生の班長・5年生の副班長を中心に、みんなで楽しめる室内ゲームや鬼ごっこなど様々な活動を考え、異学年交流を図っている。中には2つの縦割り班が合同で、対抗戦形式で遊びを行うこともあった。また、みんなで使うグラウンドや学校の花壇を綺麗にするために、奉仕活動にも取り組んだ。活動の中で、各班の担当場所の割り振りや一輪車等で雑草を集める担当を決めたり、奉仕作業中に低学年の児童に抜き方を教えたり、草を抜く場所を指示したりするなど、主体的に活動に取り組む児童の姿が見られた。



(3) 募金活動や集会

運営委員が中心となって赤い羽根や緑の羽根の募金活動を行った。また、『1年生を迎える会』『いじめ0集会』『創立記念集会』など様々な集会の企画・運営を行った。

3 成果と課題

成果として、児童の主体性が高まり、自分たちで話し合うことで活動の提案や改善に積極的に取り組む児童の姿が見られた。また、異学級・異学年の児童と関わり合いながら取り組む集団活動を活性化させることができ、特に高学年の児童の主体性の向上につなげることができた。

課題として、異学年交流の機会の一つとなっていた全校児童が集まる形式での運動会や集会の実施が、感染症まん延防止のため制限される中で、感染症対策と、より多くの児童・集団が互いに関わり合う機会の充実を両立させるための特別活動の検討・工夫が必要であると感じた。